

# 災害時に新しい様式で

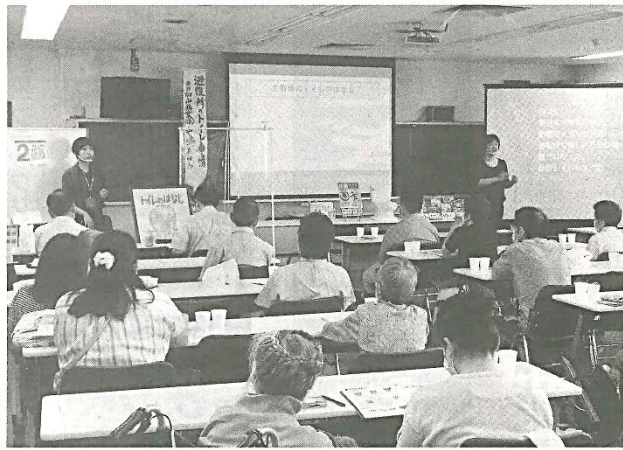
豊橋

障害当事者や地域住民ら参加

「さくらピア避難所体験」

障害当事者や家族、ボランティア、地域住民ら

が防災を学ぶ「さくらピア」が2020避難所体験



災害時のトイレ事情などをテーマにした避難所体験＝いずれもさくらピアで

が26日、同市障害者福祉会館「さくらピア」で開かれた。災害避難時のトイレ事情や、新型コロナウイルス禍における「新しい避難様式」について市民が知識を深めた。「体験しよう 備えよう 障害者の防災を考える集い」と銘打ち、同館指定管理者の「豊橋障害者（児）団体連合協議会」（豊障連、山下徹会長）が毎年開く事業。福祉避難所指定の同館を使い、避難生活を検証する。障害当事者を主体とした継続的な防災啓発事業の取り組みは全国でも高い評価を受けている。講演や避難訓練、災害

ボランティアの受け入れと申し込み、避難所開設レイアウト実習、防災運動会と、毎年異なる内容で開く。今年は座学で、以前から関心の高かった「避難時のトイレ」をテーマにした。ウイルス感染拡大の影響で時間を短縮し、参加者も30人と絞って実施した。施設利用者や関心のある市民らが市内各地から参加し、関心の高さを伺わせた。

はじめに、豊橋市福祉政策課の中村光伸さん、兵藤広之さんが「災害時の地域助け合いを進めよう」新しい避難様式」と題し講演した。コロナ前後の避難所の写真を比較紹介し、新しい避難様式として「分散避難」を示した。「指定の避難所が混んでいて入れない場合などを考え、友人や親戚宅、車中泊といった複数

の避難先を考えておくことが大切」と説いた。非常用持ち出し袋にマスクや消毒液を入れることも呼びかけた。続いて、産業廃棄物処理・リサイクルなど手掛ける「加山興業」（豊川市）の中嶋あゆみさんが「避難所のトイレ事情」について講演した。災害時のインフラ復旧は電気、ガス、上下水道の順で、水洗トイレの使用には時間がかかること紹介した。避難時のトイレについて「遠い、汚い、使いにくい、三重苦。だからといって我慢すると膀胱炎や腎盂（じんづう）炎、エコノミー症候

群につながる恐れもあり、被災のストレス、疲労が重なり亡くなった人もいた」と述べた。同社が扱う非常用トイレの説明もあり、参加者自身も凝固剤に水を加えて、吸水システムを体験した。帰りに非常用トイレを土産でもらった参加者は「早速、防災袋に入れる」と話していた。

豊障連の山下会長は「3・11のつどい」と合わせて年に2回、防災を考える機会にしてみたい」と話していた。

【田中博子】

非常用トイレに関心を示す参加者



非常用トイレに関心を示す参加者

東愛知新聞 令和2年9月27日（日）